



ききょううつ子だより



2026年 令和8年を迎えました。本年もよろしくお願ひいたします。

元旦は青空が広がり穏やかな年明けになりました。翌日の夕方から寒気が入り、東京では初雪となりました。夜のうちに積もった雪が、日の当たらないところではまだ残っています。

今年は冬のオリンピックが開催されます。米国がペネズエラを攻撃し、世界情勢が不安定ではありますが、平和を願い、2月からの開催を楽しみにしたいと思います。

保育園では、1月8日に『新年あけましておめでとう集会』を行います。今年も元気で過ごせるよう、子どもたちが太鼓の叩き初めをします。みなさまにとっても、よい一年となりますよう願っています。



1月の予定

7日（水）	ひなぎく組 乳児健診
8日（木）	新年あけましておめでとう集会
9日（金）	身体測定
16日（金）	避難訓練
20日（火）	ききょう組遠足 プラネタリウム
21日（水）	ひなぎく組 乳児健診
29日（木）	みにみにげきじょう 誕生会会食
30日（金）	入園説明会
31日（土）	全クラス懇談会



おしらせ

ランチルーム自動水栓

年末年始の休園中に、ランチルームの手洗い場と幼児室を自動水栓にしました。

幼児室では、水栓をひねる動作も子どもたちの発達のためには必要だと考え、今まで自動にしてきました。今回、ひねる動作は園庭の蛇口でもできること、水の出しつばなし
が増えてきたこと、そして衛生面からの変更となりました。

皆さんには引き続き、登園時の手洗いをお願いいたします。ランチルームの水栓は、レバーが下がっていると水が出ません。もし下がっていましたら、レバーを上げてからの利用をお願いいたします。

〇歳児室玩具棚

1月16日（金）18:00～ 〇歳児室の玩具棚の一部を新しいものに変更いたします。棚の搬入と搬出作業があるため、ひなぎく組、たんぽぽ組は夕方の保育室の変更があります。17:30～ なのはな室での保育になります。ご理解・ご協力ををお願いいたします。

〇歳児室の玩具棚の入れ替えに伴い、他クラスの玩具棚も一部入れ替え、環境替えをするクラスもある予定です。子どもたちがよりあそびこめるような環境を目指し、職員同士で話し合い、子どもたちの意見も取り入れながら考えていきたいと思います。

わたぼうし 14 号原稿のおねがい

12月号でもお知らせしましたが、わたぼうし 14 号の原稿を募集しています。

家庭での子どもたちのようすやできごと、成長を感じたこと、子どもたちから聞いた保育園の話など、テーマは自由です。連絡ノートからの抜粋なども楽しいかもしれません。

100~800 字程度の原稿を、園のメールアドレスに Word 文書の添付でお寄せください。文書添付ではなく、本文に直接記入も可能です。

手書きの原稿は事務所に届けてください。1月 14 日締め切りです。



12月の保育園

高尾山遠足

気温が低いという予報でしたが、風がなく日差しがたっぷりあり、天気に恵まれました。ケーブルカー山頂駅からは3号路を通り、山頂へ。紅葉は見ごろを終えていましたが、道中では子どもたちが天狗を発見し、山頂ではくっきりと富士山も見えました。

もちつき会

ききょう組の保護者3名にお手伝いしていただきました。

あいにくの雨模様の中、園庭の階段下で雨粒を避けながらのもちつきでした。保護者の方々がちょうどよい具合についた後、ききょう組は杵を持ち、もちつきをしました。

“ぺったん”と杵に餅がつく感触を体験し、つきあがった餅で小さな鏡餅を作りました。

昼食はもち米のごはんです。「いつもと匂いが違う」と気が付き、食感の違いにも気が付いたようです。



よりよい保育園になるには

あと1か月もしないうちに、2026 年度の新入園児が内定します。職員たちは、外部講師を招いての園内研修や世田谷区の研修等を受けながら、子どもたちにとってのよりよい環境やかかわりを考え続けています。

今、発達心理学では『子どもができないことをいつまでも叱っていると、自信がなくなって余計にできなくなる。それより手伝ってあげたり、やってあげたりしたほうがいい。そのほうが大人と子どもの人間関係もよくなり、子どもの自己肯定感も保たれるので、しっかりとした自立につながる。もちろん子どもにやる気があって時間もあるときは、待ってあげたほうがいい。今はただひたすら人間関係を自己肯定感を大事にしよう。そうすれば、どの子も自分のペースでしっかり自立ができる』と言われているそうです。



一人ひとりのペースやタイミングは異なります。保育園は集団生活ですが、子どもたちが見通しを持って主体的に決めることができる環境構成と、ある程度の生活のルーティンがあれば、自立に向かっていけるのではないかと思います。

ききょう保育園で今まで大事にしてきた、子どものすべてを受け止め、発達の幅を理解し、一人ひとりに合ったかかわりを続けられるように学び続けていきたいと思っています。